

2025 年度 ワークショップ「写真の技法識別と取り扱い・保存」

開催要項

- 1 趣 旨 博物館に勤務する学芸員等の専門職員、または同様の職務を行なう方を対象として、写真史料の技法識別と取り扱い・保存に関する研修を実施し、写真を収蔵する機関に所属する担当者に求められる基本的な知識・技能を養うことで、写真の整理・保存と学術資源化の作業に従事するための能力向上を目指す。
- 2 共 催 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター
同センター古写真研究プロジェクト
JSPS 科研費：基盤研究 (B)「幕末明治期古写真の調査とその解析・復元・保全を総合的に捉える写真史科学の構築」(23K25351)
- 3 実施期間 講義科目Ⅰ 2025 年 11 月 28 日(金)
講義科目Ⅱ 2025 年 11 月 29 日(土) ※実技実習参加者限定
実技実習科目 2025 年 12 月 1 日(月)、2 日(火) 合計 4 日間
- 4 実施方式 講義科目Ⅰ：オンライン配信 ※実技実習科目参加者は原則として対面参加
講義科目Ⅱ・実技実習科目：対面開催
- 5 開催会場 東京大学史料編纂所(東京都文京区本郷7-3-1)
大会議室(講義科目Ⅰ)、演習室・写真室(講義科目Ⅱ・実技実習科目)
- 6 対象者 博物館に勤務する学芸員等の専門職員、または同様の職務を行なう方。
- 7 研修内容 別紙参照。
- 8 参加経費 受講及び配布資料は、無料とする。ただし、受講者の参加に伴う旅費、パソコンの用意や通信に係る費用は、各受講者が負担すること。
- 9 申込方法 講義科目および実技実習科目の申込方法は、2025 年 9 月頃に告知し、募集を開始する予定。なお、実技実習科目参加者は、選考のうえ決定いたします。
- 10 その他 ・オンライン配信の講義科目Ⅰは、一般の方も受講可能とする。
・実技実習科目は、講義科目Ⅰ・Ⅱを含む全日程および全科目の受講を修了の要件とし、部分受講は認めない。

- ・実技実習参加者は、講義科目Ⅰ・Ⅱについて、いずれも原則として対面での受講を推奨するが、特別な事情がある場合には別途ご相談ください。
- ・参加申込等で取得した個人情報は、ワークショップに関する連絡のみに使用する。
- ・ワークショップ期間中に記録した動画・静止画等を広報や報告に使用する場合があります。

11 問合せ先 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター古写真研究プロジェクト

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

Tel : 03-5841-5964 E-mail : koshashinpj.202511@gmail.com

(別紙)

2025 年度 ワークショップ「写真の技法識別と取り扱い・保存」
カリキュラム

【1 日目】 11 月 28 日(金)10:30～18:30 講義科目 I 大会議室・オンライン

10:20～10:30 受付 (史料編纂所正面玄関ホール)

10:30～10:35 尾上陽介(東京大学史料編纂所所長)「開催挨拶」
事務局「趣旨説明・事務連絡」

10:35～11:15 白岩洋子(白岩修復工房)「写真保存のための基礎－ワークショップの実習概要と目的」

写真は他の文化財と比べてどのようなところが違うのでしょうか。本ワークショップはなぜ写真技法の識別が写真の保存にとって重要なのかを理解することを目的とします。主に 19 世紀から 20 世紀にかけて多様な技法で制作された写真を対象に技法の識別を行います。識別を通じてそれぞれの写真の材料と構造を把握し、適切な取り扱いと保存方法について考察します。

11:15～11:55 谷 昭佳(東京大学史料編纂所技術専門員)「モノとしての写真と写真史科学－史料編纂所古写真研究プロジェクトの活動から」

アナログの写真には画像として見えている内容だけでなく、写真が内包する様々なモノとしての情報があります。これらを丹念に拾い上げる写真史科学を実践することにより、技法からは制作年代や制作時の状況、劣化や損傷からは伝来過程など、歴史研究に写真を用いるため必須となる史料批判の材料を得ることができます。

11:55～12:10 質疑・応答(白岩・谷)

12:10～13:00 ≪休憩≫

13:00～14:20 高橋則英(日本大学上席研究員)「写真術の誕生と技法の変遷－その識別と保存の意義」

写真は 19 世紀の初めに発明された光化学作用に基づくプロセスであり、最初は手作りの写真術として発達し、19 世紀末からは工業的な生産品が発展して実に様々な技法が使われてきました。それらの特徴や保存性、識別方法などを解説し、写真とはどのようなものなのかについて理解を深めます。

14:20～14:30 ≪休 憩≫

14:30～15:10 高山さやか（東京大学史料編纂所技術専門職員）「デジタルカメラによる写真資料複写の実際」

写真資料を研究資源化するために昨今欠かせないデジタル複製の画像制作において、意識すべきポイントを機材・画像の両面から解説します。デジタルカメラを用いた複写に最適な機材選定、信憑性・真正性を意識した画像フォーマット、画像解像度、色再現など、蔑ろにしてはならない基礎的ポイントの再認識を目指します。

15:10～15:25 質疑・応答（高橋・高山）

15:25～15:35 ≪休 憩≫

15:35～16:55 地主智彦（文化庁文化財第一課主任文化財調査官）「写真の保存と活用－文化財行政の視点から」

平成 11 年（1999）はじめて写真が重要文化財（歴史資料）に指定されました。それから四半世紀が経過するなかで、写真の重要文化財指定件数は 16 件に至り、さらに一括資料中に写真が含まれる例も複数みられます。ここでは、文化財保護行政の視点から、同行政の概略、写真の調査、保存、活用の実際、その成果と課題を共有し、各機関における今後の写真の保存、活用に関することを目的とします。

16:55～17:10 質疑応答（地主・全体）

17:10～17:20 ≪休 憩≫

17:20～18:10 Edouard De Saint-Ours（フランス国立ギメ東洋美術館学芸員）「フランス国立ギメ東洋美術館所蔵日本関係古写真の活用と保存について」

ギメ東洋美術館の写真コレクション、特に日本の写真コレクションについて、新たな研究プロジェクト「HikarI A」、作品の保存と保管の方針、展覧会貸し出し時の対応などについて概説します。また写真部門が所属する、ギメ東洋美術館の新しい組織であるアジア芸術国際研究センターの活動についても紹介します。

18:10～18:30 質疑・応答（Edouard）

【2日目】 11月29日(土)10:30～16:10 講義科目Ⅱ 演習室・写真室

10:20～10:30 受付 (演習室)

10:30～11:10 桑田恵里(東京大学史料編纂所技術職員)「カメラと写真印画の基礎知識」

アナログ写真は、光学的な装置と化学反応によってイメージを記録するメディアです。ここではカメラの基本的な仕組みと、銀塩写真に代表される写真制作の化学的プロセスを概観し、写真の物質的特性に対する理解を深めます。実技実習に先立ち、写真の成り立ちに関する基礎的な知識を身につけることを目的とします。

11:10～11:50 谷 昭佳・高山さやか(東京大学史料編纂所技術専門員・技術専門職員)「銀塩写真の実際－撮影・現像・プリントについて」

写真技法の識別には、写真特有の化学的プロセスを理解する必要があります。技法によってそのプロセスは異なりますが、モノクロネガフィルムを例にとり、銀塩写真の撮影・現像・プリント行程を実践した様子を紹介します。

11:50～12:00 質疑・応答(桑田・高山・谷)

12:00～13:00 ≪休憩≫

13:00～14:20 白岩洋子(白岩修復工房)「写真技法とその構造」

写真技法は時代と共に進化し発展してきました。このセッションでは実際の写真資料を観察しながら技法ごとの特徴や構造、使用されている材料を見極めるスキルを高めます。写真の構造と材料、写真を識別する際の注目すべきポイントなどを解説します。

14:20～14:30 質疑・応答(白岩)

14:30～14:40 ≪休憩≫

14:40～16:00 白岩洋子(白岩修復工房)「写真の取り扱いと保存」

写真は取り扱いや保存環境によって劣化が進むことがあります。このセッションでは写真に特有の脆弱性や劣化・損傷の原因について学びます。さらに、保存のための環境条件、適切なハウジング・収納方法や包材材料の種類や保管方法について解説します。

16:00～16:10 質疑・応答(白岩)

【3 日目】 12 月 1 日(月)9:10～17:40 実技実習科目① 演習室・写真室

9:00～9:10 受付 (演習室)

9:10～9:30 参加者自己紹介、諸連絡ほか

9:30～10:30 実習 1「写真の取り扱い」 白岩洋子(白岩修復工房)

写真は他の資料と比べて、どのような点に注意して取り扱わなければならないのか、サンプルを実際に手に取って写真や包材を扱う実習を行います。包材の種類や特徴、写真を保管する場合の方法、保管目的を考慮した上での保管方法などを考えます。

- ・支持体別の取扱注意点(金属、ガラス、紙、プラスチック)
- ・写真を点検する時の注意点
- ・包材を交換する場合の方法、注意点

10:30～10:45 ≪休憩≫

10:45～12:00 実習 2-1「写真の材料・技法」 白岩洋子(白岩修復工房)

それぞれの技法のサンプルをよく観察しながら特徴をつかみます。

- ・銀画像の写真:ダゲレオタイプからゼラチンシルバープリント
- ・銀画像ではない技法の写真:カーボン、サイアノ、プラチナ、ゴム印画
- ・写真製版(コロタイプ、フォトグラヴィールなど)
- ・コロジオンネガ、ガラス乾板など
- ・ネガフィルム

12:00～13:00 ≪休憩≫

13:00～17:00 実習 2-2 グループワーク

グループに分かれて写真の識別を行います。(フローチャートを使用)

- ・支持体の種類と特徴→下地層・画像層の有無、種類→画像形成材料は何か
- ・画像の特徴(ルーペや顕微鏡を使用)

※ 17:20～17:40 暗室の見学

※ 18:00～20:00 懇談会

【4日目】 12 月 2 日(火)9:30～16:05 実技実習科目② 演習室・写真室

9:20～9:30 受付 (演習室)

9:30～12:00 実習 3「状態調査:写真の脆弱性—劣化と損傷」 白岩洋子(白岩修復工房)

実際に劣化・損傷のあるサンプルを見ながらコンディションレポートを作成します。まず写真技法を識別、その状態を観察し、レポートを作成します。その上で対処方法を考えます。

例) 破損したガラス乾板、破れのある鶏卵紙、台紙の劣化問題など。

12:00～13:00 ≪休憩≫

13:00～14:30 実習 4「ハウジング、マッティング(マウンティング)、包材材料」

白岩洋子(白岩修復工房)

包材の種類や特徴について学びます。保管やハウジング方法は写真の技法と種類によって異なるため、いくつかのサンプルに対する実演を見学します。

14:30～14:45 ≪休憩≫

14:45～15:30 実習 5「写真の保存環境・メンテナンス」 白岩洋子(白岩修復工房)

・写真の保存環境、メンテナンスの注意点

15:30～16:00 まとめ 質疑・応答ほか

16:00～16:05 箱石 大(東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター長)「閉会挨拶」